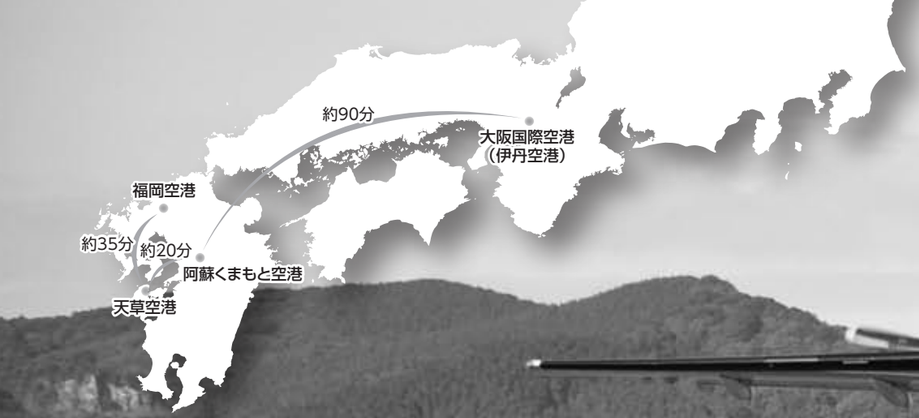
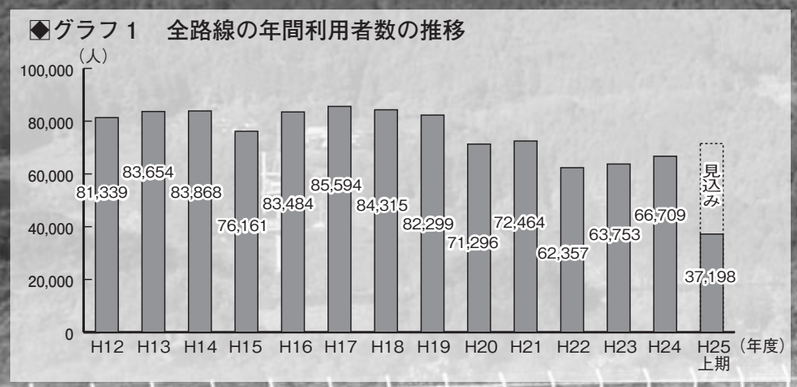
天草エアライン さらなる利用促進を目ざして

平成12年3月に開港した天草空港（五和町城河原）を拠点に、福岡や熊本、大阪の空を結ぶ“天草エアライン”。平成25年2月に機体のデザインを一新し、同年4月には就航以来の利用者が100万人を突破するなど、天草の地域振興や観光振興等に大きな役割を果たしています。

今号では、天草エアラインの利用状況のほか、さらなる利用促進に向けた取り組みなどについてご紹介します。





利用者数は回復の兆し　年間約7万人

皆さんは、天草エアラインをどれくらいの人が利用しているかご存じですか。グラフ1は、全路線の年間利用者数の推移です。平成12年3月の天草空港開港以来、同19年度までは8万人前後の利用がありました。

しかし、平成20年度は大幅に減り約7万人になり、同22年度は約6万人にまで減少。これは、福岡線の利用者減が主な要因です。ただ、23年度以降はやや増加、25年度には7万人台まで回復する見込みで、利用者数は回復の兆しを見せています。

今後もこの状況を継続し、さらなる利用促進につなげるための取り組みが必要になっています。

利用促進に向けた取り組み

それでは、天草エアラインの利用促進に向けた取り組みについては、どのように行われているのでしょうか。同空港の開港当初から利用促進の取り組みを進めているのが、県や天草地域内の2市1町、事業所・団体などで構成する「天草空港利用促進協議会」（会長＝安田公寛・天草市長、事務局＝市地域政策課）です。

同協議会では、地域内外の事業所などを訪問し利用を呼びかけるPR活動をはじめ、天草エアラインを利用した旅行商品を企画する旅行業者への助成を実施しています。

一方、イルカの飛行機を運航する天草エアライン㈱では、天草島民を対象にした住民割引などを行っているほか、市と共同で平成25年4月から「ご搭乗100万人感謝キャンペーンセール」を実施しています。

なお、同キャンペーンセールや航空券の購入方法などの詳細は、天草エアライン㈱予約センター☎㉞1515（受付時間：午前9時～午後6時）へお尋ねください。

ここがスゴイぞ“天草エアライン”　就航率 98.3%（平成25年度上半期実績）

就航率とは、飛行機の予定便数に対して実際にどれくらい運航したかを示す割合で、この数字が高いほど欠航が少ないということになります。

天草エアラインは、梅雨時期を含む平成25年度上半期（4～9月）で98.3%と高水準を維持。1機での運航ながら、国内の大手航空会社にも引けをとりません。

もちろん、天候や機材の不具合などで欠航になることはあります。それでも、機材の不具合による欠航は日々の行き届いた整備・点検などにより、毎年減少しています。

ここがスゴイぞ“天草エアライン”　地域の医療を支える

皆さんは、市立病院に勤務する非常勤医師が、天草エアラインを利用して来られていることをご存じですか。牛深市民病院で外来患者の診察や健診などを担当している藤原久子医師もその1人です。「この病院に勤務することを決めたとき、福岡から天草へ飛行機があることは知らなかったんです。でも、今となってはなくてはならない交通手段ですね」と藤原医師は話します。天草エアラインは、地域の医療を支える翼として大切な役割を担っています。

▲診察を行う藤原医師